

磨きあい、輝きあうG C V大中タイム

福岡県田川郡大任町立大任中学校

はじめに

本校がある大任町では10数年前より、花いっぱい運動を行っている。町内の公共施設や幹線道路沿いには、花壇やプランターが数多く設置され、春、秋にはたくさんのきれいな花を咲かせ、地域の人々や他地域からの訪問者の目を楽しませてくれている。本校での体験活動の中心である「花の日」の活動は、この運動と連携する形でスタートし、現在、約13,000本の苗を学校で育苗し、学校花壇をはじめ、町内の公共施設等へ配布している。

「花がいっぱい咲いていて、きれいな学校ですね。」
来校される方々からそういわれることが本校生徒・教職員の喜びであり、誇りである。

また、本校で育てた苗が成長し、美しい花を咲かせる度に、地域の学校への関心が高まり、学校への協力体制も充実してきている。

本校では、数年来積み上げてきたこの伝統をより充実させ、さらに地域へその活動を発信することで、地域に開かれ、地域とともに歩む学校づくりを目指している。



【校門前の花壇】

1 本校体験活動の概要

(1) 活動のねらい

本校では、学校目標「調和のとれた全人教育を通して、一人一人の生徒が自己を認識し、自分の意志で自己を形成する力（自己実現）の育成」の具現化のために総合的な学習の時間の目標として次の3点を掲げている。

自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成

自らを律しつつ、他人と共に協調し、「他人を思いやり、公共のために尽くす心」「自然を愛し美しいものや崇高なものに感動する心」「生命を尊重する心」「感謝の心」などの豊かな人間性の育成

自己の学びのスタイルを確立し、将来にわたっての主体的な学びの姿勢の育成

この3つのねらいの中で体験活動においては、特に、この「豊かな人間性」を育む活動として計画、実践していきたいと考えている。

(2) 教育課程上の位置付け

現在、本校では、伝統的に受け継がれてきた「花の日」の活動等の自然体験、文化体験、勤労生産体験的活動をG（Garden）C（Culture）V（Volunteer）を基底とする「磨きあい、輝きあうG C V大中タイム」として新たに再編し、教育課程の中に位置付け、その活動のより一層の深化・充実を目指した取り組みを行っている。

具体的には、総合的な学習の時間での各学年テーマとは別に「磨きあい、輝きあうG C V 大中

【総合的な学習の時間の年間テーマ】

	1年生（70時間）	2年生（70時間）	3年生（70時間）
学年テーマ （各50時間）	郷土・自然 大任町を知ろう 環境問題調査	国際理解 日本文化を知ろう アジア諸国調査	福祉・健康 健康を考えよう 福祉施設訪問
全校テーマ （全20時間）	磨きあい、輝きあうG C V大中タイム 「花の日」の活動、ふれあい合宿、摩山川クリーン作戦等		

タイム」を全学年統一テーマとして設定し、年間の総合的な学習の時間のカリキュラムに組み込んでいる。

(3) 活動形態

集団への所属感、そして、大任中学生としての自覚を高めることをねらいとして、本校では3大行事ともいえる体育祭、ふれあい合宿、文化祭に紅白のブロック制を取り入れている。そこで、G C V 大中タイムの体験活動においても、このブロック制を取り入れ、異学年縦割集団として、生徒の自主的活動をより一層引き出すこととした。



【花の日の活動風景】

(4) 活動内容

「花の日」の活動

G C V 大中タイムの中心となる勤労生産的体験活動である。

秋花壇用と春花壇用にそれぞれ約 13,000 本の苗を育て、学校花壇への定植と町内各施設、幼・保育園、小学校への苗の配布や定植を行っている。

英彦山ふれあい合宿

地域のシンボリックな山である英彦山で行う自然体験活動である。

メインの活動となる登山では、「全員が山頂に立とう」を合言葉に、事前活動でブロック毎に隊列等の作戦を考えて実施される。

また、登山道の空き缶拾いや案内板整備等、ボランティア活動も取り入れている。



【英彦山登山】

彦山川クリーンアップ作戦

各学級で生活部が中心となり、ゴミ問題等の環境問題について事前学習を行った後、全校生徒で大任町を南北に貫流する彦山川の両岸を各ブロック毎に担当を決め、空き缶、ゴミ拾い等の清掃活動やバス停の落書き消しや整備などの奉仕活動を行っている。



【彦山川河岸の清掃活動】

(5) 推進体制

校内の推進体制としては、校長・教頭・教務主任・研究主任・生徒会担当・各学年代表による「豊かな体験活動推進委員会」を立ち上げ、カリキュラムの作成、各活動の基本計画、評価方法について研究を進めている。

また、学校での取り組みを支援し、諸機関・団体・地域との連携を深めるため教育委員会（学社融合担当）、PTA代表、保幼代表、小学校代表、諸団体代表（食推会、老人会、区長会）による「豊かな体験活動支援委員会」を設置した。これにより、本校体験活動をより地域に開かれ

たものへと深化・充実させることができると考える。

2 活動の実際（「花の日」の活動）

【14年度「花の日」の活動の年間計画】

前述のとおり、本校ではいくつかの体験活動を計画・実践しているが、ここでは、GCV大中タイムの中心となっている「花の日」の活動の実際を紹介する。

(1) 「花の日」までの事前活動
活動は、4月の秋花壇用のマリナーゴールドやアゲラタム等の種まきから始まる。

実際の活動では、必要人数的に全員参加しなくてもよい細かい作業等がたくさんあるが、そういった作業を担当し「花の日」の活動の中心となっているのは、生徒会専門部の美化部である。具体的には次のような活動を担当している。

種まき
「花の日」の案内作成と配布
「花の日」の進行及び作業説明

学級での「花の日」の事前学習
散水等の日常的な苗の管理
学校花壇のデザイン公募と決定

日 程	活 動 内 容	作 業 担 当
4. 26 (金)	秋花壇用苗の種まき	美化部、職員
5. 22 (水)	花の日について	全学級
5. 28 (火)	秋花壇用苗の移植「花の日」	全生徒・教師（ブロック） 保護者、地域の方々
6. 3 (月)	花壇の整備	全生徒・教師（ブロック）
6. 11 (火)	土起こし、堆肥	美化部、職員
6. 21 (金)	秋花壇用苗の定植	全生徒・教師（ブロック）
6月～7月	補植、苗の配布	美化部、職員
7月～8月	夏休み中の散水	当番生徒（ブロック毎）
9. 1 (日)	春花壇用苗の種まき	美化部、職員
10. 8 (月)	春花壇用苗の移植「花の日」	全生徒・教師（ブロック） 保護者、地域の方々
11. 13 (水)	花壇の整備	全生徒・教師（ブロック）
11. 14 (木)	土起こし、堆肥	美化部、職員
11. 20 (木)	春花壇用苗の定植	全生徒・教師（ブロック）
11月～12月	補植、苗の配布	美化部、職員

(2) 「花の日」当日の流れ

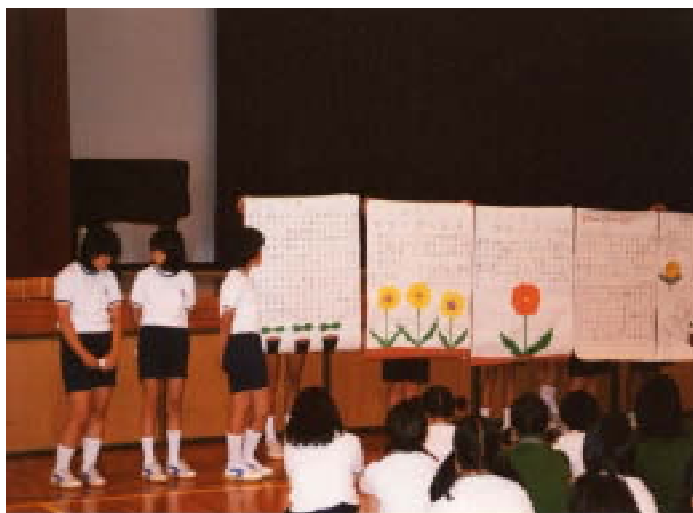
本年度の「花の日」は、保育所、幼稚園、小学生、保護者、地域の人々、約150名の参加の中で行われた。

【開会式】 ～体育館～

参加者の紹介の後、各ブロック長から活動についての決意表明、美化部から移植する花の説明、作業の手順説明が行われた。

【移植活動】 ～本校駐車場～

保幼園児、小学生については、各ブロック毎に事前に担当を決め、その担当班毎に中学生の指導のもと、作業を行ってもらった。



【美化部による花の説明】

また、保護者、地域の人々については、地域の中学生在が所属する班に入り作業を行っていただいた。実際の作業では、苗の運搬、花の種類・色ごとの振り分け等に留意しなければならないが、事前に美化部から提案があり担当者を決めておいた。

約1時間30分の活動で約13,000本の苗の移植を完了した。

【閉会式】 ～本校駐車場～

学校長、生徒会長から、活動に参加していただいたお礼と、移植した苗は学校で少し育て、その後、配布や町内の施設に定植を行うことを伝え、その後、ブロック毎にブロック長を中心に今日の活動の反省が行われた。

(3) 事後活動及び評価

「花の日」の活動によりポットに移植された幼苗は、美化部生徒によってある程度育てられ、それぞれ生徒のデザインにそって、各ブロック担当の学校花壇に「校内花の日」(定植)の活動で植えられた。そして、夏休み中の生徒当番制による散水を経て、今年もきれいな花を咲かせてくれた。また、その他の苗は、町内外の各施設に配布、または町内施設の花壇に生徒会や美化部の生徒の手により植えられ、各施設を彩っている。

3 活動の成果としての生徒、教職員、地域の人々の変容

(1) 生徒の変容

生徒は、本校での体験活動で重視した、汗を流す体験、生命を育む体験、集団宿泊の体験、奉仕活動の体験、保護者や地域の人々とのふれあいの体験等の中から、人間的なふれあいをおして、自分の役割、責任の重さ、協力することの大切さ、思いやりのすばらしさ、新たな友達の発見、新しい自分の発見等を学習したようである。体験活動後の生徒の感想や懇談会での保護者の話、地域の人々の声等からそれらを知ることができる。

(2) 教職員の変容

共に汗を流し活動することで、生徒との信頼関係が深まっている。また、授業中とは違う生徒の一面にふれることで、個々の生徒への理解が深まり、日常の生徒指導や教科等指導へ生かすことができ、本活動が積極的な生徒指導として効果的であることを再認識している。また、活動をおして、様々な地域の方々とはふれあう中で、地域の特性がよく把握でき、それを日常の学習活動へ生かすことができるようになった。

(3) 地域の方々の変容

本校で実践されている「花の日」の活動等に参加したり、本校で育てられた苗が各施設で花を咲かせるのを見ることによって、学校に対する関心は高まってきている。

町内のいろいろな場所で活動に対する共感の声を数多く聞くようになった。今後は、推進委員会をおしてさらに地域の方々の参加を呼びかけるとともに、地域と連携した新たな活動を取り入れるなど、学校教育への関心をさらに高めていきたい。

4 今後の課題

(1) 総合的な学習の時間での他の活動と共に評価計画(評価場面、評価規準等)の作成を「豊かな体験活動推進委員会」で進めていく必要がある。

(2) 現在の体験活動を「豊かな体験活動支援委員会」を活用し、より地域に開いた活動へと深化させるとともに、地域の特性や教育力を生かした新たな体験活動を創り出していく必要がある。

おわりに

体験活動をおして、生徒が本当に変容しているのかどうか、研修会等でよく出される問題である。確かに「花の日」の活動等での生徒の感想の中には、「きつかった」「つらかった」等の感想を書いている生徒もいた。

しかし、毎年、春と秋に学校花壇をきれいに彩ってくれる花々を見て、生徒は何かを感じているのは確かなようである。本校では、体験活動のもつ「生徒を変える」力を信じて、その深化・充実に取り組んでいきたい。